



“輝け! ひぐみっ子” だより

学校ホームページは
こちら



公式Instagram
Higusta★はこちら



横浜市立東汲沢小学校
校長 渡辺 誠

副校長 山田 正治

自分に勝つ、克つ

向暑の候となり、夏日があったかと思えば、肌寒さを感じて衣替えてしまった上着を引っ張り出す日があるなど、服装に悩む日が多い今年の5月後半ですが、そんな中、5月19日(火)に全校一斉で「新体力テスト」の計測が行われました。この日の計測は、ソフトボール投げ、立ち幅跳び、上体起こし、反復横跳び、長座体前屈、握力の6種目でした。20mシャトルラン、50m走は別日(一部学年では既に実施)に各学年で行います。

一年生はこのテストには初めて取り組みましたが、二年生以上は昨年度以前に取り組んでおり、昨年度の自分の記録からどれだけ伸びているかを楽しみにしながら取り組んだ子どもたちが多かったのではないかと思います。

昨年度お知らせしたように、私は学生時代に陸上競技に取り組んでいました。陸上競技(小学校では「陸上運動」や「走・跳の運動」と呼ばれます)の大きな特性の一つに、「自分の記録更新にチャレンジして楽しむ」ということがあります。多くのスポーツがもつ「他の人(チーム)と競争(競走)して楽しむ」という特性ももちろんありますが、前者が陸上競技の最大の魅力の一つだと思います。その点から、「陸上」は他の運動領域と比べて「新体力テスト」と重なるところが多いのではないかと考えます。

自分の記録更新にチャレンジするという事は、戦う相手は他者ではなく自分ということになります。もちろん、大会等では他者との競争も同時に行われているのですが、仮に順位が下位でも、1秒でも1cmでも自己記録を更新すれば、自分との勝負には勝ったことになります。他者に負けても、対自分に関しては、満足感を得られるということです。

子どもたちは、学校で学習をはじめ様々な活動を行っています。それらの活動に毎日取り組んで、様々な力を身に付けようとしています。学校という場なので、友達等の他者が存在するため、活動中に他者と比較して自分が劣っていると感じてしまう場面があるかもしれません。人間は、どうしても他者と比較しての自分を見つめてしまいがちですが、そんなとき、自分との勝負には勝っているのかを意識してほしいです。それは、今の自分はそれまでの自分より力が付いているか、成長しているかに目を向けるということです。その付いた力が、成長が、ほんの僅かなものであっても、前進しているのは確かなのですから。

しかし、「自分に勝った」ことを素直に喜べない、気付かない子もいます。そんなときこそ大人の出番です。「自分に勝った」、力が付いた、成長したことをしっかり認めて称賛することにより、子どもたちはそれを実感し、「成長した新しい自分に勝つ」意欲をもつことができるのではないかと考えます。

今年度始まってまだ2か月ほどですが、子どもたちが自身の成長を実感できるような教育活動の場を教職員一丸となって設定していきたいと思えます。

